

## 風に恋しては振られるしやぼん玉

竹下和宏

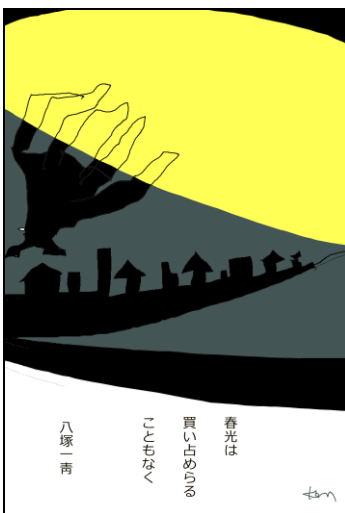
しやぼん玉は、恰好いい風とみればすり寄ってゆくのだが大方は弾かれてしまう。振られても気にせずお気楽であきらめぬのがバブル根性か。



## 頑固さはもう捨てました春キャベツ

鈴木和枝

春キャベツの軽やかさを新しいかたちで表現した。頑固さを捨てているのはキャベツでもあり作者自身でもある。つぶやきの口語俳句。



## 春光はいくらも買占められることもなく

八塚一青

価値のあるものは、えてして資本家に買占められるもの。しかし、この春の光はそうはゆかぬ。資産、所得額に関係なく平等に与えられる。



## 蛇出でて腰のあたりのカぬく

井口夏子

蛇でなければ分からない実感を描いている。蛇の腰の部分に注目したところがいい。どこが蛇の腰かって？そりゃ穴を出て最初にくねったところよ。



## 失恋の始めはバレンタインの日

西をさむ

恋心の告白を簡単にできるようにした商魂が、バレンタインデーとなっているわけだが、うまくゆくとは限らない。人生は甘くはないのさ。



## 啜へくるクロネコヤマト桜鯛

椋本望生

桜鯛を啜えてクロネコヤマトとはお洒落。佐川や日通では句にならぬ。「ほかほかの焼芋腹にカンガルー」「カンガルー懐の焼芋で手を温め」なんてね。